平成29年度小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　平成29年度総括表

法人名	医療法人社団松涛会	代表者	斎藤　正樹
事業所名	小規模多機能型居宅介護 やすらが丘	管理者	堀内　健

法人・事業所の特徴	一人ひとりのケアを大切に利用者の意思を尊重した介護支援を目標に実施して参ります。「あなたの歓びがわたしの生きがいです」をスローガンとしています。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2人	2人	1人	人	2人	1人	1人	2人		13人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	今後開催される会議等で丁寧に説明したい。自己評価頂ける様努力をしていきたい。	内外の会議等にひとつひとつ丁寧な説明に取り組む様に努めた。	毎日を見てはいないが、訪問したときの職員の挨拶などは出来ている。「できている」との評価を頂いた。	できる限り何事にも丁寧な対応を心がけている。今後も良い評価が継続するよう質の向上に心がけたい。
B．事業所のしつらえ・環境	複合施設の玄関は共用である。「入り」は制限なく自由になっているが「出る」は職員の確認が必要となっている。特に施設前が国道で交通量も多いことから安全を考慮し拘束につながらないように最善を考えた設備とした。	環境整備に取り組んだが成果が目に見たものではない結果となる。有料老人ホームと出入り口が共用でもあり利用者の離設防止に努めている。拘束との兼ね合いもありぎりぎりのところと理解している。利用者家族からのクレーム等の相談等は現在のところ届いていない。	前回同様「玄関出入り口の鍵」の件で質問があった。自動ドアの開錠が出るときに安全上の問題で、職員による確認で開錠している旨を説明する。「認知症」の徘徊等の予防対策になるとの理解を頂く。他「臭気」が行く分気になるとの指摘がある。	①施錠については、安全上の対策で今後も継続。②「臭気」については不快な臭気対策生活上の問題もあり換気等に気お付け環境整備に取り組むこととする。
C．事業所と地域のかかわり	開設間もない状況で地域とのかかわり合いが出来ていない。今後、避難訓練や文化祭等を通じ今後地域とのかかわりを持ちたい。	地域とのかかわりは今期も出来ていないに評価している。他事業所を参考に地域に親しまれる環境つくりに努めたい。	地域の人に知られているか等に分からないとの意見が1人、行事に参加しているかに1名と意見を頂く。	近隣に施設が数箇所あり固有名称での周知には至ってはない。見学者は多く案内に迷った方はいないので場所は周知されている。今後も見学相談で来設しやすいよう更に努力したい。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域との関わりを今後の課題として職員一人ひとりが意識しながら情報をいただきながら地域に浸透していきたい。	今般、自立支援を目標に「出来る為に」の支援を推進している。地域資源を活用し少しでも暮らしを支える取り組みを更に努めていきたい。	地域への行事の参加、近隣の方が相談に来られているかの質問に1名わからないと疑問を投げかけられる。	行事の参加は事業所として参加しているが勤務の関係で多くの人数ではない事に心苦しさを感じる。今後も地域の行事には積極的に参加するよう努力したい。相談については電話、近隣の病院、施設等多く頂いているので今後も介護に関しての相談窓口として機能させたい。
E．運営推進会議を活かした取組み	今後運営会議に出された意見で改善項目や取り入れた事例等を会議で公表し意見等を頂きよりよい運営推進会議として地域と共有できる環境を計りたい。	運営推進会議を地域資源と考え今後皆様からの提案等をひとつでも具体的に実現できるように活かすことの出来る会議として取り組んで行きたい。また、職員が出来る限り多数参加し運営推進会議を更に行かせる環境にも取り組んで行きたい。	取り組みについて1名地域で取り組んでいるかに分からないと疑問を頂く。	小規模多機能型サービス自体が地域密着型で参加者も地域の方々です。運営推進会議が更に地域に理解されるよう努力をはかりたい。
F．事業所の防災・災害対策	昨今事件事故が続いている。他人ごとではなく自己防衛も意識し、地域の方の力を借りての対策は必要です。訓練は年2回以上実施を目標に今後皆様の協力を得る為、文章で案内し、参加協力をお願いしたい。	今後の課題として、施設を活用し、地域の協力を得られる防災・防犯対策を構築していきたい。	防災訓練した事がありますかとの質問に1名分からないと意見が出された。	年2回は消防署に計画を出し正規の認証の元実施ししている事を説明。今後も火災・防犯・災害に対して定期的に避難訓練の継続して行く。